

freee株式会社

API Server でビジネスサイドを起点としたリアルタイムデータ経営を高度化

～外部オブジェクト連携で業務データを Salesforce ダッシュボードにフィード～

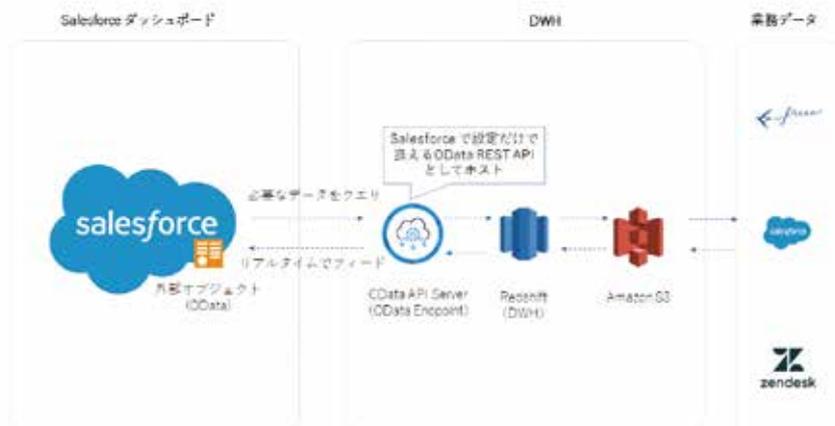
クラウド会計トップシェアの freee 株式会社は内部では徹底したデータ経営をされています。製品戦略、マーケティング戦略、カスタマーサクセスのモニタリングなどすべてデータで検証可能にし、全員がデータを共通言語にオペレーションをしています。今回、AWS Redshift に保存された業務データを Salesforce のダッシュボードからリアルタイム参照する仕組みを CData API Server にて実現されました。ビジネスサイド全員が使い慣れている Salesforce ダッシュボードから、営業関連データのみならず freee サービスの利用状況、サポートといったデータを探索的にドリルダウンできることでデータ経営の高度化につながりました。

Challenges

- ・ Salesforce から DWH のリアルタイム参照
- ・ 利用者によって異なるデータの粒度
- ・ 速いスピードで変わる KPI へのフレキシブルな対応

Solutions

- ・ CData API Server + Redshift JDBC Driver で DWH を OData エンドポイント化
- ・ Salesforce 外部オブジェクトを使い、作成した OData エンドポイントをリアルタイムクエリ



本件を企画・実装された、経営管理本部分析グループマネージャの鎌田さんとプロダクト基盤本部データエンジニアの中山さんにお話を伺いました。

Q: どういった背景で今回のプロジェクトが生まれたのでしょうか？

鎌田氏：freee では、経営はデータをベースに行われています。どんな機能を追加するべきか、どんなキャンペーンを打つべきかなどの意思決定はデータを使って検討され、その結果をモニタリングしながら短いサイクルでプロジェクトを回します。経営サイドやビジネスサイドから「こういうデータがほしい。この KPI のデータがほしい。」というリクエストが分析・基盤チーム来るので、それに対して素早く分析可能なデータを提供する必要があります。

たとえば、freee は多くの銀行口座やクレジットカードとの連携を提供しています。口座・カード連携は入力の手間を削減できる機能ですので、カスタマーサクセス担当は「どれだけのユーザーが銀行・カード連携機能をつかっているか？」という指標を KPI としてモニタリングします。そしてキャンペーン担当はどんなユーザーにキャンペーンを打てばよいかを知り、結果を比較することができます。サブスクリプションベンダーとして、このようなデータによる細かいフォローを絶えず行う必要があります。

Q: 分析データの提供においてボトルネックは？

鎌田氏：1) ダッシュボードを別の BI ツールではなく、Salesforce 上で作っている点。ビジネスサイドで一番使っているシステムが Salesforce なので、ダッシュボードも Salesforce にしています。ただし、Salesforce の外部オブジェクトは、OData API という特定のデータしかフィードできないので実装方法に悩みました。

2) ビジネスサイドで異なる粒度のデータを探索的に使う点。ビジネスサイドでは決して定型のレポートを求めているわけではないです。KPI を個別のアカウントにブレイクダウンしたり、構成する要素のデータを見に行くこともあります。

3) 必要となる切り口がすごいスピードで変わる点。ビジネスサイドからはデータの切り口について多くのリクエストがあり、頻繁に変わるため、特定のデータセットをバッチで物理的に Salesforce に書き込むことに多くの時間を割かれてしまっていました。

Q: CData API Server で実現できたことは？

鎌田氏：実装のポイントは、CData API Server を使って Salesforce 外部オブジェクトに Redshift データを API でリアルタイムでフィードしたことです。Salesforce ダッシュボードで使いたいデータを選択するだけで、リアルタイムに API Server 経由で DWH である Redshift にクエリが可能です。Redshift からクエリに必要な粒度のデータ考えてバッチ処理で Salesforce 側に書き込む ETL 処理を組む必要がなくなりました。結果として従来新しい切り口のデータを Salesforce ダッシュボードで利用できるようにするまでに 1 週間程度かかっていたのですが、1-2 日で提供できるようになりました。データセットの微修正も Redshift 側の修正だけで済むので対応が早くなりました。

Q: 実際に API Server を使われた感想は？

中山氏：元 Salesforce の社員の紹介で CData API Server について知り、スムーズに検証、開発を行うことができました。free では「スピード感」はすごく大事です。これまで多くの時間を割いていた DWH から Salesforce への ETL 処理を実装する必要がなくなり、さまざまな業務システムより KPI に必要なデータを取得して加工する方の ETL 業務に注力できるようになりました。現状は重要度の高い KPI からリアルタイム連携を組みましたが、今後どんどんバッチからリアルタイムの仕組みにシフトしていきたいです。





free 株式会社

本社：東京都品川区

設立：2012 年 7 月

資本金：161.6 億円

同社ウェブサイトより

CData は、米 CData Software, Inc. の登録商標です。他社製品名などは各社の商標です。